

# 2

## 街と田園のかたちを明確にする



### 都市づくりの基本方向

都市的な利便性と自然の豊かさの  
どちらも楽しめる都市、  
それが岡山市をめざす「庭園都市」の姿です。  
そのため、高次に集積する都市機能と  
文化性、居住性を備えた都心を創生するとともに、  
人と環境にやさしい交通ネットワークで  
都心と周辺の地域拠点を結び、  
バランスのとれたまちづくりを進めます。  
また、市民の生活を守るため、  
災害に強い安全な都市づくりを推進します。

# 2 街と田園のかたちを明確に

## 背景と課題

少子・高齢化の急速な進行やインフラ<sup>1</sup>投資への財政制約などから、都市機能を集約したコンパクトな市街地の形成が求められています。また、過度に車に依存しないで生活できる、環境負荷が小さく持続可能なまちづくりが必要です。

市街地の拡大に伴い人口や都市機能が郊外へ移り、都心の魅力が低下しています。長い歴史の中で都市文化を育んできた都市の顔である都心を、人が住まい、集い、働き、楽しむ舞台として再生し、賑わいを取り戻すことにより、都市の魅力と活力を高めることが重要です。

また、中四国における広域交通のクロスポイントに位置する地理的な優位性をいかし、広域圏の中核都市として交流機能の充実を図りながら、都市格の向上に資する都心形成を図る必要があります。

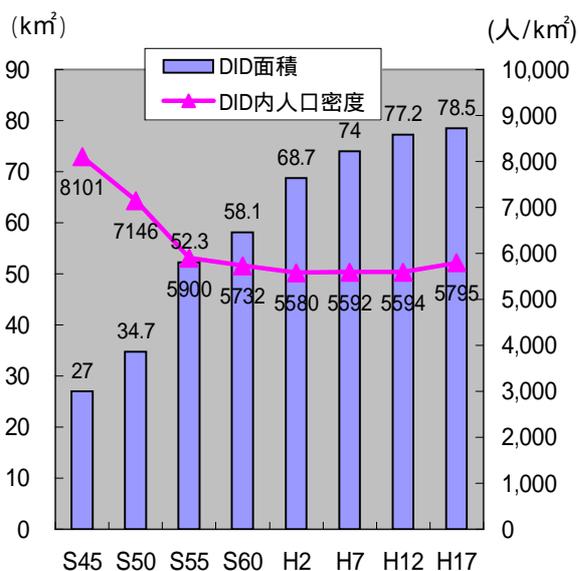
自然災害が比較的少ない地域ですが、災害から市民の生命と生活を守るため、災害に強い都市インフラの整備や消防力の強化が求められています。また、増加する救急ニーズに対応した救急体制の強化も重要です。

環境問題や少子・高齢化社会への対応などのため、人と環境にやさしい公共交通を中心とした交通システムの構築が求められています。

さらに、都心通過交通を軽減し、渋滞による経済損失や環境負荷の低減を図るため、環状道路の整備や公共交通との結節性の向上が重要です。

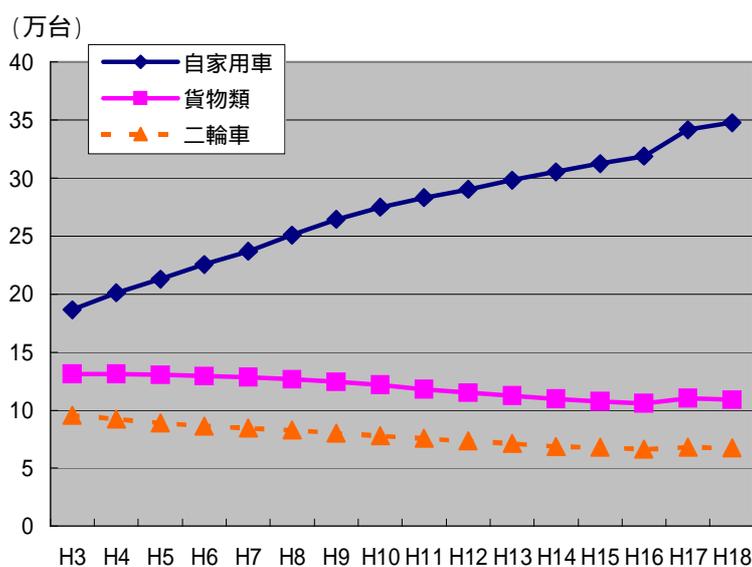
また、自転車の利用環境を整え、都市内交通の重要な手段とする必要があります。

### DID<sup>2</sup>面積と人口密度



資料: 各年国勢調査

### 市内の自動車登録台数



資料: 交通政策課

# する

## 推進すべき政策・施策

次の4つの政策(プロジェクト)により、主に都市整備分野における都市づくりを推進します。

### 1 コンパクト市街地と田園の共生プロジェクト

都市的な利便性と自然の豊かさを共に楽しめる都市構造を実現する



都市構造の明確化

土地利用の適正誘導

地域拠点の形成

### 2 生活交流都心創生プロジェクト

高次に都市機能が集積し、文化性、居住性を備えた都心を創生する



高次の都市機能の充実

都心居住の魅力を高める

快適なにぎわい空間の創出

歩いて楽しいまちづくり

### 3 安全な都市基盤プロジェクト

市民の生命と安心な生活を守る



安全な都市インフラの整備

市民の安全を守るシステムづくり

安定したライフライン<sup>3</sup>の整備・管理

快適な生活環境づくり

### 4 人と環境にやさしい総合交通システムプロジェクト

公共交通を中心とした交通ネットワークを構築する



駅のターミナル機能、トランジット機能<sup>4</sup>の強化

公共交通を都市内交通の基幹に

人と環境にやさしい自動車交通システムの構築

自転車の利用環境整備

1 インフラ: インフラストラクチャー(infrastructure)の略で、生産や生活の基盤を形成する構造物。ダム・道路・鉄道・港湾・発電所・通信施設などの産業基盤、および学校・病院・公園・下水道などの社会福祉・環境施設など。

2 DID(ディーアイディー): Densely Inhabited Districts の略で、人口集中地区と訳す。国勢調査に基づき、人口密度の高い(4,000人/km<sup>2</sup>以上)地域及び人口5,000人以上を有する地域の二つを満たしている市街地のこと。

3 ライフライン(lifeline): 水道・電気・ガス・電話など生活していく上で必要不可欠なもの。

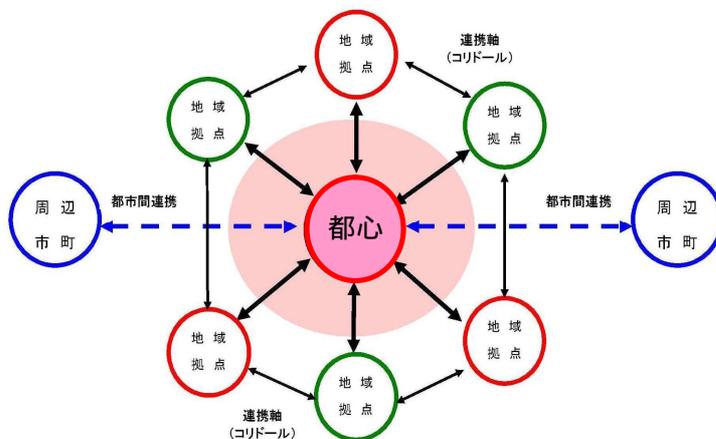
4 トランジット機能: 交通ターミナルなどにおいて鉄道やバス等から、鉄道やバス等へ乗り継ぐ機能のこと。

# 1 コンパクト市街地と田園の

新しい都市のかたちである「庭園都市」を実現するため、  
 多様な自然環境と質の高い都市集積が共存する本市の特性をいかし、  
 都市の利便性と自然の豊かさのどちらも楽しめる都市をつくれます。  
 そのために、秩序ある土地利用を進めるとともに、  
 都心や周辺の地域拠点とそれらを連携する軸を明確にし、  
 都心と周辺地域がネットワークにより連携した、  
 全体としてバランスのとれた都市を構築します。

## 都市構造の明確化

都心や一定地域における日常の生活や交通の中心となっている地域拠点と、それらを結ぶ交通・情報等の連携軸(コリドール<sup>5</sup>)を明確にし、それらが相互にネットワーク化された、全体としてバランスのとれた都市構造を形成します



都心部



西大寺地区

## 土地利用の適正誘導

都市計画法、農地法等の適正な執行とともに、都市マスタープラン<sup>6</sup>のもとに、計画的な土地利用を推進します。そして、無秩序な市街地の拡大を抑制し、国土の保全や洪水防止などの役割も果たす郊外の田園や農地の保全に努めるとともに、市街化区域での秩序ある土地利用の誘導と都市機能の集約化を図ります。

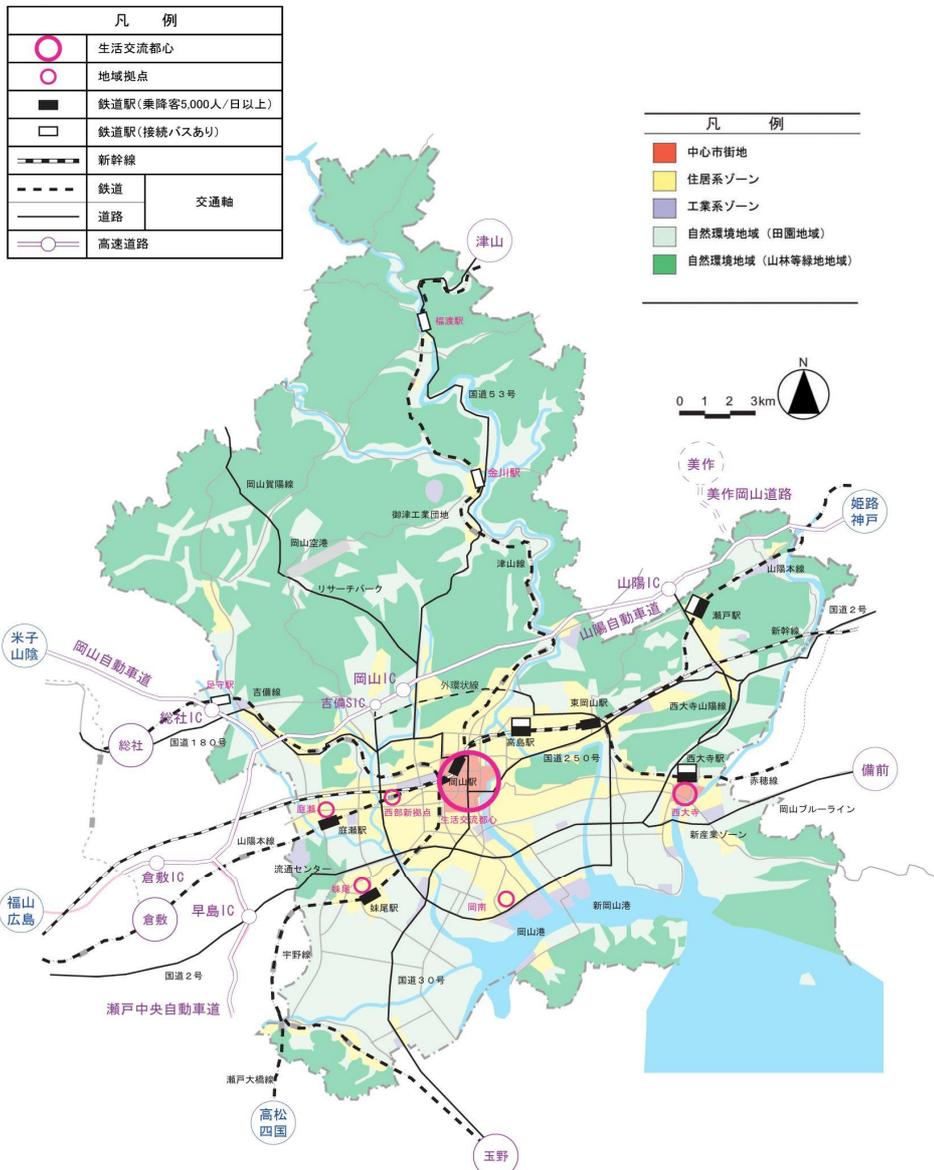
5 コリドール(corridor): 回廊、廊下という意味。都市構造の骨格となる都心と地域拠点や地域拠点間をつなぐ連携軸のこと  
 6 都市マスタープラン: 都市計画法18条の2の規定に基づき策定するもので、都市づくりの将来像、土地利用の方針、都市施設や市街地整備の方針など都市計画に関する基本的な方針。  
 7 地区計画: 地域に住む市民が主体となって、地域の特性をいかし、建物の用途、高さ、壁面の位置、敷地の規模などのきめ細かなルールを定め、地域にふさわしいまちづくりを推進するまちづくりの制度。

# 共生プロジェクト

## 地域拠点の形成

地域拠点では、それぞれの生活圏域などの特性を踏まえながら、日常生活の利便性を担う機能の維持・充実を図るとともに、自然環境や歴史・文化資源をいかした緑豊かで美しく快適な生活環境づくりに努めます。また、住民自らルールづくりに参画できる地区計画<sup>7</sup>などを活用し、地域の特性をいかしたきめ細かいまちづくりと良好な都市景観の創出を促します。

さらに、市全体の都市格の向上に寄与し、都市機能の集積を図る新たな拠点地区の形成を進めます。



## 成果指標

指標名	基準値(平成17年度)	平成22年度	平成27年度	平成37年度
市街化区域内の人口比率	80.5%	81.0%	81.5%	82.0%
都心の人口密度	75人/ha	78人/ha	81人/ha	87人/ha

# 2 生活交流都心創生プロジェクト

都心は、豊かな歴史と文化が蓄積した都市の顔です。

政令指定都市の、また、広域圏の中核拠点都市の都心として、

商業・業務や情報・交流などの高次な都市機能の集積を図ります。

そして、人々の生活や交流の場として、

多世代が様々なライフスタイルを楽しめる都心居住環境を整えるとともに、

交流機能の充実を図り、にぎわいあるまちづくりをめざします。

## 高次な都市機能の充実

土地の高度利用<sup>8</sup>を促進し、商業・業務、教育・文化、福祉・医療、コンベンション<sup>9</sup>など、広域圏における中核都市機能を充実、強化します。

また、本市の玄関口である岡山駅とその周辺の複合機能化を進め、交流拠点機能を高めます。



岡山駅とリットビル

## 都心居住の魅力を高める

公園のバリアフリー<sup>10</sup>化や緑化を推進し、子どもたちにとって安全な遊び場と多世代が集い、憩える場を提供します。また、持続可能なコミュニティの再生により、高齢者も子どもも健康で安全に暮らせるまちなか居住環境を整えます。

さらに、質の高い文化・教育、アミューズメントを楽しめる都心づくりを進めます。



下石井公園とインターパークス

## 快適なにぎわい空間の創出

岡山の顔であるカルチャーゾーン、表町、西川緑道公園などの魅力を高めるとともに、岡山駅周辺エリアと表町エリアの二つの核を快適に回遊しながらつなく、にぎわいの都心回廊づくりを進めます。

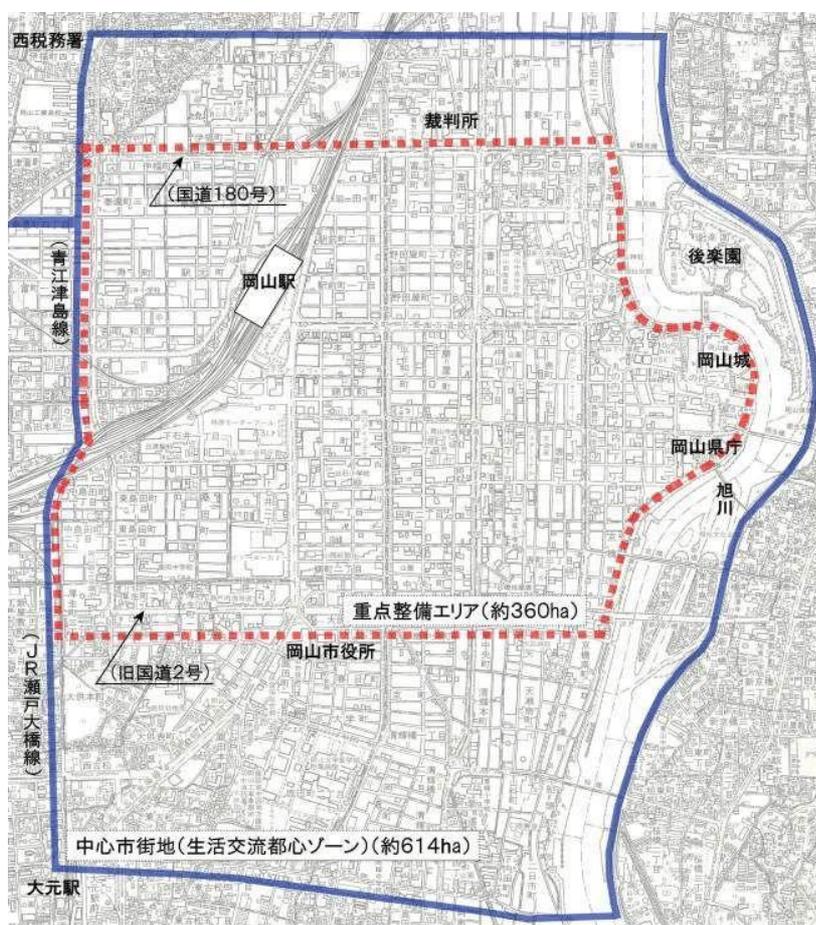
また、商業空間の活性化を図り、人が集うオープンスペースや食の市場など、にぎわいの核づくりに努めます。

# クト

## 歩いて楽しいまちづくり

都心は、歩車共存道路、自転車走行空間、都心内を循環する公共交通の整備などにより、誰もが安全で快適に歩ける環境の整備を進めます。

さらに、トランジットモール<sup>11</sup>や歩行者天国の実施、木漏れ日空間の創出、おしゃれして歩きたくなるみち空間の整備など、歩いて楽しい都心づくりをめざします。



中心市街地区域図

## 成果指標

指標名		基準値(平成17年度)	平成22年度	平成27年度	平成37年度
都心の事業所の割合		24.3%(H13)	24.7%	25.5%	27.0%
都心の歩行者数	(休日)	5,410人(H16)	6,000人	6,600人	8,000人
	(平日)	3,846人(H16)	4,300人	4,700人	5,700人

8 土地の高度利用: 小規模建築を抑制し、一定規模以上の容積をもった建築物の建築を推進するとともに、敷地内に有効な空地を確保することにより、良好な市街地環境を整備すること。

9 コンベンション(convention): 特定の目的で多数の人が集まること。会議、学会、見本市、展示場、博覧会、スポーツ大会、発表会など。

10 バリアフリー(barrier free): 体の不自由な人でも支障なく活動できる環境のこと。

11 トランジットモール: 一般の自動車交通を制限し、バスや路面電車などの公共交通機関を配置することにより、歩行者の安全と交通手段の双方を確保したものの。

# 3 安全な都市基盤プロジェクト

市民の安全で安心な生活を守るため、  
 災害に強い都市基盤の整備を進めるとともに、  
 迅速で的確な対応ができる消防・救急体制や、  
 災害時における総合的な防災協力体制づくりを行います。  
 また、中四国における中枢拠点都市として、  
 広域的な救援活動を視野に入れた基盤整備を進めます。

## 安全な都市インフラ<sup>1</sup>の整備

大規模な災害の発生による被害を最小限にとどめるため、大雨に強い河川や下水道、高潮を防ぐ海岸の整備、橋梁の長寿命化・耐震化を進めます。さらに、面的な市街地整備など様々な事業手法を活用し、安全で災害に強い都市づくりに努めます。

また、防災拠点となる庁舎などの耐震化や災害時に避難所・避難地となる公園・学校施設などを複合機能を持つ施設として充実を図ります。



当新田ポンプ場

## 市民の安全を守るシステムづくり

災害から市民の生命と安全を守るため、迅速で的確な災害対応力と高度な救急・救助体制を整備するとともに、広域的な相互救援体制の確立をめざします。

また、防災に関する情報の提供と防災意識の普及向上に努め、消防団、自主防災会等の充実強化を図りながら、市民、地域、事業者、行政が連携した防災協力体制の構築を進めます。

さらに、建築物の耐震化・不燃化などの防火安全対策を促進します。



総合防災訓練

## 安定したライフライン<sup>3</sup>の整備・管理

ライフラインの安定的な整備・管理を行うことにより、大規模な災害に備えます。そのため、関係事業者等と連携し、上下水道、電気、ガス、通信インフラの管路や施設の耐震化など災害に強い基盤整備に取り組みます。

また、道路、橋りょう等の計画的な維持管理をはじめ、緊急貯水槽や機材の備蓄など災害時の応急対応に備えるとともに、災害時における道路などライフラインの早期復旧に向けた体制を整えます。



耐震性緊急貯水槽

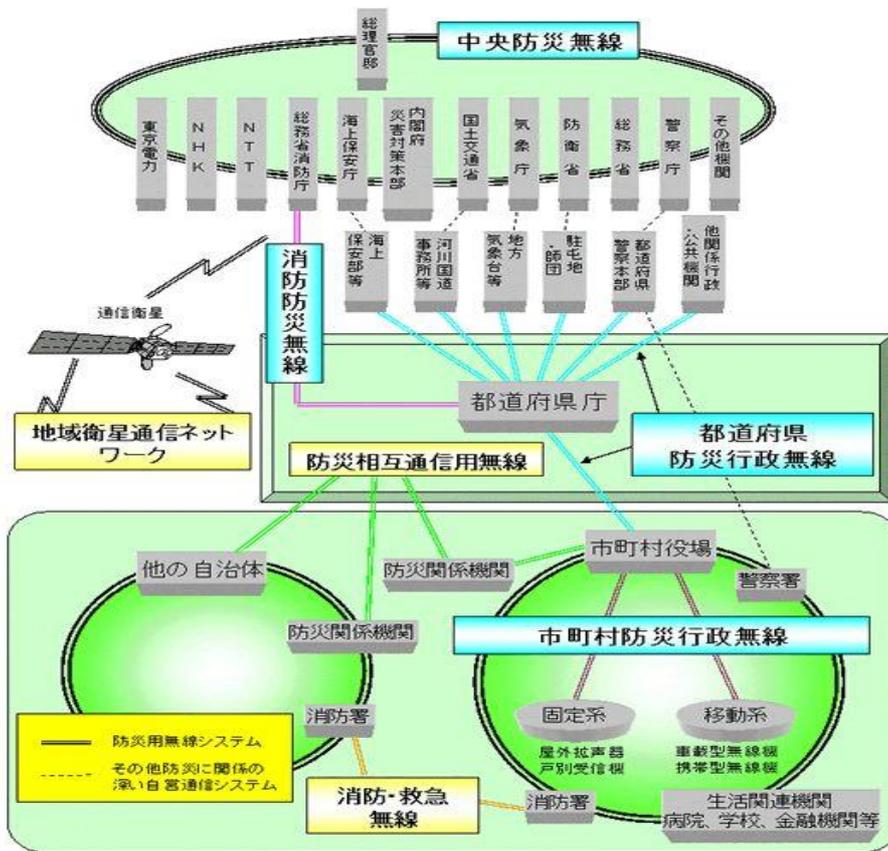
## 快適な生活環境づくり

良好な住環境の整備に努めるとともに、幹線道路網とのつながりを重視しながら、地域活動と暮らしに密着する生活道路環境の整備に努めます。

また、公衆衛生の向上と清潔で快適な生活環境づくりとともに、周辺環境に配慮しながら墓地や斎場など生活環境関連施設の整備を図ります。



生活道路環境



防災用無線システム



消防ヘリコプター (ももたろう)



消防情報通信センター



西消防署・消防防災センター

## 成果指標

指標名	基準値(平成17年度)	平成22年度	平成27年度	平成37年度	
浸水対策実施済み割合	70%	75%	80%	90%	
救急車到着時間	(覚知 <sup>12</sup> から)	6.8分	6.5分	6.4分	6.0分
	(入電 <sup>12</sup> から)	8.7分	8.1分	8.0分	7.6分

1 インフラ:P33の脚注参照。

3 ライフライン(lifeline):P33の脚注参照。

12 覚知/入電:「覚知」とは、119番通報等を受け、火災・救急等の災害種別や場所等を認識したとき。「入電」とは、119番通報等を受けたときをいう。

# 4 人と環境にやさしい総合交通

広域拠点都市として、鉄道・高速道路・空港・港をいかし、  
 人・もの・情報の交流の活発なまちづくりを進めることが重要です。  
 そのため、広域交通の中心である岡山駅のターミナル機能の充実とともに、  
 都市内における公共交通と自動車交通を効率的に組み合わせ、  
 さらに、自転車の利用環境を整えることにより、  
 公共交通を中心とする人と環境にやさしい総合交通システムを構築します。

## 駅のターミナル機能、トランジット機能<sup>4</sup>の強化

中四国圏域における岡山駅の交通拠点機能を高めるため、広域交通から都市内公共交通への乗り継ぎをより円滑にするとともに、訪れる人が快適に利用できるよう東西駅前広場の整備と機能分担など利便性の向上に取り組みます。

また、公共・公益的施設の併設など、拠点となる駅や周辺施設の複合機能化を進めます。



駅西口広場・東西連絡通路整備イメージ

## 公共交通を都市内交通の基幹に

公共交通を都市内交通の中心にすえ、都心と周辺を結ぶ公共交通ネットワークの整備を進めます。

そのため、新駅設置や鉄道駅・駅前広場等の機能向上、車両等の公共交通施設のバリアフリー<sup>10</sup>化の促進など、鉄道・バスの利便性向上を図るとともに、鉄道のLRT<sup>13</sup>化、路面電車の延伸・環状化などの検討を行います。

また、利用しやすいバス交通システムの整備や公共交通情報の普及・高度化に加え、離島や中山間地など交通不便地域における生活交通手段の確保に取り組みます。



路面電車(MOMO)

## 人と環境にやさしい自動車交通システムの構築

高速道路とのスムーズなアクセスの向上とともに、まちの骨格となる環状道路と幹線道路のネットワークを整備するとともに、ボトルネック<sup>14</sup>対策の推進など道路の改善を進めます。

また、自動車利用の適正化、パーク・アンド・ライド<sup>15</sup>、道路情報の高度化など交通需要マネジメント(TDM)<sup>16</sup>を推進し、効率的で人と環境にやさしい自動車交通システムの構築に努めます。



パークアンドライド

# システムプロジェクト

## 自転車の利用環境整備

晴れの国岡山の特性と平坦な地形をいかし、環境にやさしい自転車利用を進めるため、安全で快適な自転車走行空間を整えるとともに、駐輪場やレンタサイクルなど手軽に利用できる自転車利用の仕組みづくりを進めます。

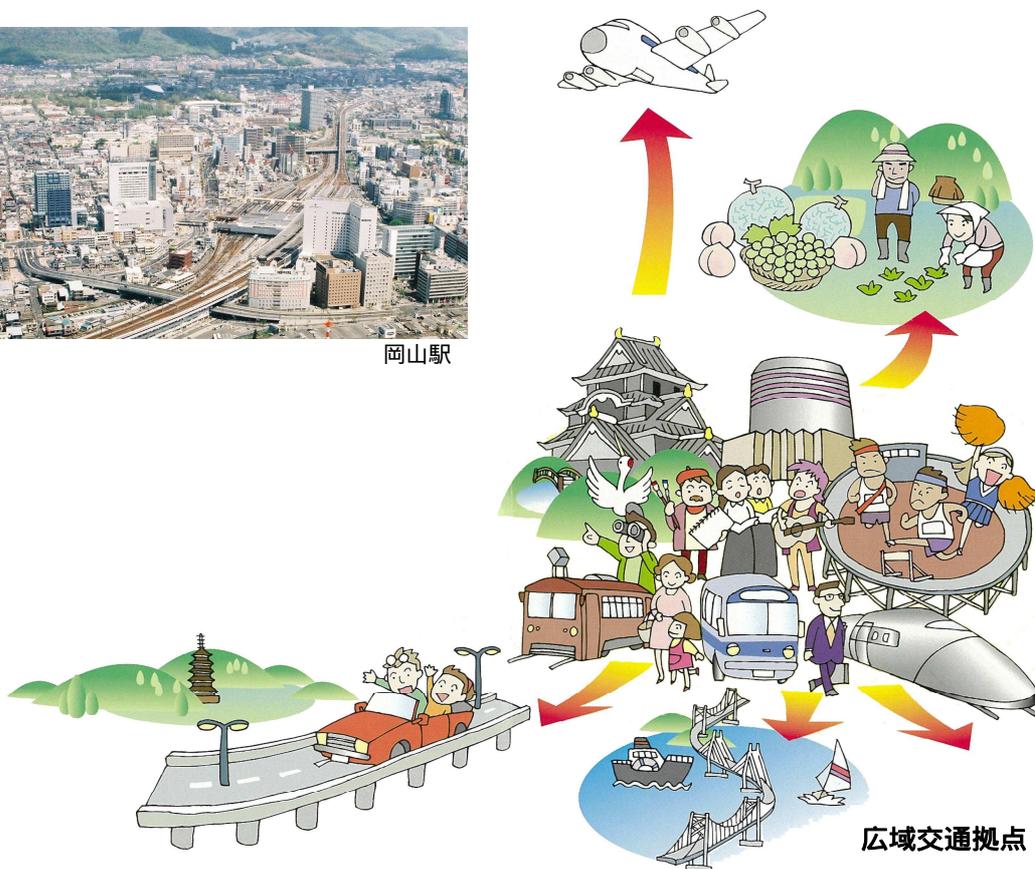
あわせて、自転車の利用マナーの向上のための啓発や放置自転車対策などにより自転車の適正な利用を促します。



自転車走行空間の整備 (西口筋)



岡山駅



広域交通拠点

## 成果指標

指標名	基準値(平成17年度)	平成22年度	平成27年度	平成37年度
JR岡山駅の1日あたりの乗降者数	11.9万人	12.2万人	12.5万人	13万人
岡山都市圏における年間渋滞損失時間	5,500万人時間	5,000万人時間	4,500万人時間	3,500万人時間

4 トランジット機能: P33の脚注参照。

10 バリアフリー(barrier free): P37の脚注参照。

13 LRT(エルアールティー): Light Rail Transit の略で、軽量軌道交通と訳す。車両の低床化や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた、人と環境にやさしい次世代型の軌道系交通システム。

14 ボトルネック(bottleneck): 英語で「瓶の首」の意。交通渋滞の発生原因となる箇所、瓶の首にたとえて表現される。交通量の多い交差点、踏切、橋梁部等などがボトルネックとなることが多い。

15 パーク・アンド・ライド(park and ride): 都心部などの自動車交通混雑の緩和のため、自宅から最寄りの鉄道駅やバスターミナルなどの周辺に駐車し、鉄道、バスなどの公共交通機関へ乗り換え、都市部へ向かう形態。

16 交通需要マネジメント(TDM): 道路交通混雑を緩和するために、車の利用者に対して鉄道やバス等への交通手段変更を啓発・誘導して、交通全体の需要調整を図る手法。TDMIは Transportation Demand Management の略。

